



ようこそ、弁膜症ワールドへ

日本心臓弁膜症学会は、心臓弁膜症を専門とする（言い換えるといつも弁のことで頭がいっぱいの）外科医と内科医が、その時の最新エビデンスに基づいた診断技術・術式とそのテクニック・手術タイミングなどにつき深い議論をする場として引き継がれてきた、歴史ある会です。前身の会である阪神弁膜症カンファレンスの時から、ハイレベルかつ実践的なプログラムが生まれ、若手心臓外科医や循環器内科医にとってはtop surgeon同士の生の議論を聞くことができるとも貴重な場でありました。この度、第12回日本心臓弁膜症学会の会長として宮崎シーガイアコンベンションセンターに皆様をお迎えできることは大変嬉しく光栄であり、同時に、この会がつかないできたバトンを受け取る緊張感を感じています。

近年の高齢患者の増加とそれによる病態の多様性は、診断・治療方針を複雑にし、リスク評価も含めた幅広い知識と経験に基づいた診断・治療が求められています。カテーテル治療を含めた様々な治療手段が選択肢となった昨今、弁膜症の診断治療に携わる幅広い立場のスペシャリストが丁々発止語り合い、学びあう場にしたい、という私たちの願いを込めて、今回の学会テーマを掲げました。ポスターの絵は、宮崎の神話から天照大神をデザインした、影絵作家 藤城清治先生の作品です。ハートに手を置いている姿は、「手当て」という心のかもった医療の姿を表しているように思います。

日本全国の弁膜症スペシャリストが集い、語り合うことを大切にしてきたこの日本心臓弁膜症学会は、弁膜症診療に大きな変革がもたらされてきた今、最も求められている場所であると感じています。

「集まろう ここは、弁膜症の世界：From the Heart We Talk」

弁膜症診療は日々変化・進歩しています。考えれば考えるほど、知れば知るほど、不思議が増えてきます。このわくわくする不思議の世界を、みんなで旅しませんか。

2年前、突然のSTAY AT HOMEを強いられたこの世界。2022年12月16日・17日は、都会から離れた、自然たっぷりの宮崎で語り合い、新しいことを見つけましょう。外科医・内科医・検査技師、チームの皆さんと予定表に今すぐ印をつけて、弁膜症の世界で、お会いしましょう！

外科系会長 倉敷中央病院 副院長 兼 心臓血管外科 主任部長

小宮 達彦

内科系会長 宮崎大学医学部 機能制御学講座循環器動脈生理学分野 教授

渡邊 望